

スーパーグローバル大学創成支援事業検証部会（第3回）要旨

1. 日時 令和5年3月15日（水）10時00分から12時00分までの間
2. 場所 文部科学省16F1会議室及びオンライン
3. 議事概要

●スーパーグローバル大学創成支援事業の検証のまとめ（案）

- ・委員による意見交換がおこなわれ、本部会における検証結果をプログラム委員会に報告することとなった。委員による発言の概要は以下のとおり。

- 大学の国際化に伴う国際頭脳循環の仕組みがより育つためにも、国際共著論文のような国際共同研究等の成果を見ることは大変有効なインディケータである。またこれは海外から優秀な研究者を受入れることにも繋がり、今後の政策実施に当たっては、グローバル化の客観的かつ実を伴った指標として入れていくとよい。
- 横展開のための枠組みとして、特に大学の国際化促進フォーラム、JV-Campusが整備されたことは素晴らしい成果であり、検証まとめでは今後の方向性も示した方がよい。
- 特に国際化推進フォーラムについては質保証が非常に重要ではないかと思っており、今後は質保証を伴った形で発展していくということを考えて頂きたい。
- JV-Campusについては、他のプラットフォームとの連携が重要になってくるのではないか。例えば、JASSOのStudy Japan等の関連プラットフォームとの連携、整合性などさらに良いものになっていくための検討を進めて頂きたい。
- 「国際教育・交流に留まらない大学全体の国際化の変革に迫られている」の部分は、大変に重要であり私たちが思っている国際化ではないようなものをこれから思考していかなければいけないというメッセージとして、検証部会のまとめの一文にも入れると良い。
- 今後の政策の方向性について、SGUの知見から地域の国際化とつなげていくということだけでこの後のポストSGUを考えていくというのは、おかしな方向性なのではないか。
- SGUは、教育の国際化だけではなくて研究の国際化の成果も見えた。しかし、それが副次的な効果であるなら、そちらも含めてポストSGUを考えることが、得られたインプリケーションではないか。今後の日本の大学の国際化を考えていくときには、グローバル人材育成や外国からの高度人材の獲得、教育の国際化もすごく重要だが、一方でやはり研究の国際化に資するような施策を進めていく方向性を提示していくべきでないか。
- （文部科学省より）
今後の政策の方向性の記載は、SGUの成果の更なる展開、更なる課題への対応、わが国の大学のさらなる国際化を推進する政策というその3点を挙げており、政策のところは地域が書かれているが、それぞれ地域だけにフォーカスするということではなく、これまでの成果の伸長、新たな課題への対応、そして、もう一つやはり裾野を広げる

というのは大事だということでの地域という考えで用意させていただいている。目的としてそこをしっかりと据えた上で制度設計をしていかなければいけないと思っている。

- 大学に入ってから「では、グローバルにしましょう」では非常にハードルが高いわけで、小さな頃から国際的なマインドセットは蓄積してやっていかなければならない。時間はかかるが、このような環境が大都市だけではなく、地方にも整うことは、今後のSGUの役割を考える際に忘れてはならない一つの重要な側面なのではないか。
- SGUは成果がある一方で、個々の大学としては、他大学との連携が十分強化されていない可能性が高く、今後の展開ではそこはきちんとやらなければならない。
- SGUはグローバル的な研究が強化された面も大事だが、高校やもっと下の地域の教育への貢献といった地域全体の教育の底上げにつながることも大事で、グローバルやリベラルアーツは大学に入ってからでは遅いので、そういうようなところを少し意識してもらえればと思う。SGUの大学が、大学の開かれた姿を見せていくというのが今後の役割ではないか。
- 産学連携と地域連携の部分について、形だけで具体的な成果が見えてこないのが残念。真にグローバルな人材を育成して、日本が国際的にさらに強くなるためには、やはり人が地域に根差して活躍していかないといけないし、それと連携して企業はもっともっとグローバル化を進めていかないといけない。
- 産学連携はもっと強化する必要がある、グローバル企業でいうと、採用する人に日本の留学経験がある方の方がより良い仕事ができると思っているし、逆もありだと思う。
- 日本人学生の送り出しに当たっては、グローバル企業の海外拠点でのインターンシップ含めていろいろなことができるはずであり、企業をもっと活用していただいている。
- 広島大学と東広島市で取り組んでいるTown & Gownという取り組みでは、密接な異次元な関係を構築しいろいろな取り組みを行っており、その中心には、研究の高度化があり、そのためには国際化が必要であると思う。実証フィールドや研究を行うための環境が必要であり、大学の国際化の進展と併せて大学と一緒にやっっていこうとしている。
- SGUという10年間かけた人材育成の仕組みで、グローバル化がやっとこれだけ進んできたというところ、次回以降の政策というのもやはり長期的な視点、ロードマップというものをしっかり作って運営をする必要がある。
- 留学生の受け入れや頭脳獲得において、例えば英語化が大学院教育で進んだことはかなり大きなインパクトがあり、成果としての非常に重要である。

(以 上)